

# 履 歴 書

氏名 (ふりがな) 熊本 太郎 (くまもと たろう)

生年月日 1970 年 1 月 11 日

自宅住所 〒8XX-0XXX ○○県○○市○○町 1-23-4-567  
TEL/FAX : 0XX-123-4567

勤務先・現職 ○○大学大学院○○研究科・准教授  
○○大学大学院○○研究科 ○○学部門 ○○学分野  
〒8XX-0XXX ○○県○○市○○町 8-9  
TEL : 0XX-321-4567 FAX : 0XX-321-1234  
E-mail taro@xyz.abc.ne.jp

学 歴 1988 年 3 月 31 日 ○○高等学校 卒業  
1988 年 4 月 1 日 ○○大学理学部 入学  
1992 年 3 月 25 日 同 卒業  
1992 年 4 月 1 日 ○○大学大学院○○研究科 入学  
(○○学専攻)  
1994 年 3 月 24 日 同 修了 (修士 (○○学))  
1994 年 4 月 1 日 ○○大学大学院○○研究科 入学  
(○○学専攻)  
1997 年 3 月 24 日 同 修了 (博士 (○○学))

職 歴 1997 年 4 月 1 日 ○○研究所・非常勤研究員  
2000 年 4 月 1 日 米国 NIH リサーチアソシエイト (Dr. ○○研究室)  
2005 年 7 月 16 日 ○○大学○○研究所・講師  
2010 年 4 月 1 日 ○○大学大学院○○研究科・准教授  
現在に至る

学 位 博士(○○学) (1997 年 3 月 ○○大学)

免許および資格 1994 年 5 月 10 日 ○○免許 (登録第 11111 号)  
2000 年 10 月 1 日 日本○○学会認定 専門医 111 号

学会活動等 日本○○学会 (8 年間、平成 20 年より評議員)、  
日本△△学会 (6 年間、平成 23 年より理事)  
日本□□学会 (4 年間)

賞 罰 2009 年 12 月 3 日 第 10 回日本 xx 学会賞受賞

## 業 績 目 録

注：著者名は全員を記し、応募者にはアンダーライン、論文の corresponding author には\*を付すこと。また投稿中論文は記載しないこと。印刷中の論文については正式な採択通知書のコピーを同封できる場合に限って記載が認められる。業績目録作成にあたって以下の業績等のサンプル記入例を参考にすること。記載順は、直近の年代の論文から過去に遡って記載すること。英文原著論文・症例報告・総説については掲載誌の最新の impact factor (IF) 及び当該論文の引用回数 (citation; Scopus による最新データ) を記すこと。

### I. 英文原著論文

1. Oe Y., Honjo E., Kuhonji T., Kumamoto T., Tsubame S., Mizuo T., Sakura H. Shirakawa K. & Kurokami T.\*  
The cell-matrix interaction via CD44 ... PKC activation.  
J. Cell Biol., in press. [IF, 9.575; citation, 0]
2. Honjo J.\* & Kumamoto T.  
Progression of tumor cells ... the H-Ras oncogenic signaling.  
Proc. Natl. Acad. Sci. USA 108, 9-10 (2011) [IF, 9.432; citation, 10]
3. Kumamoto T.\*, Honjo J., Oe Y., Kuhonji T. & Kurokami T.  
Signal transduction of ... in the cell differentiation.  
Nature 443, 456-789 (2006) [IF, 34.480; citation, 300]

### II. 英文原著論文の数、IF の総和および引用回数のまとめ

注：記入例に従い、総論文数、1st author、2nd author、last author、corresponding author および、それ以外の共著者の論文数を記載すること。印刷中の論文については、I に記載したものに限り記載が認められる。1st author でかつ corresponding author である場合や last author で corresponding author である場合などは、corresponding author として扱い、重複して記載をしてはならない。IF の合計点、\*selected IF の合計点および引用回数についても記載すること。また最近5年間の掲載論文についても () 内に記載すること。

\*Selected IF:申請者が 1st author, 2nd author, last author もしくは corresponding author である論文の IF。

#### 記入例

総論文数
100 (35)

1st author 論文数	2nd author 論文数	Last author 論文数	Corresponding author 論文数	それ以外の 論文数
20 (7)	20 (10)	20 (5)	10 (5)	30 (8)

IF の合計点	Selected IF の 合計点	引用回数の 総合計
350 (200)	212 (167)	852

### III. 英文総説

1. Honjo J., Kumamoto T.\* & Kurokami T.  
Regulation of cellular proteins ... via ubiquitin-proteasome.  
N. Engl. J. Med., 345, 9-10 (2001) [IF, 47.050; citation, 500]
2. Kumamoto T.\*  
Stress response and transcriptional regulation ... in neuronal cells.  
Nat. Rev. Mol. Cell Biol., 1, 23-45 (2000) [IF, 42.198; citation, 600]

### IV. 邦文原著論文

1. 熊本太郎. 組み換えタンパク質の発現効率の制御に関する研究.  
生化学 85, 124-132, 2013

### V. 邦文総説

(注：全国規模の学会誌などに、申請者の研究成果を中心に当該分野の現況などについてレビューした、特に重要なもの等に限定して記載のこと。)

1. 熊本太郎. 組み換えタンパク質の研究についての展望.  
生化学 84, 985-993, 2012

### VI. 著書

1. Oe Y., Kuhonji T, Tsubame S., Mizuo T., Sakura H. & Kurokami T.  
Alzheimer's disease and stress gene expression.  
*In* Alzheimer's Disease, Annals of Neuroscience, Vol. 123  
(eds., Honjo J., Oshiro G. & Shirakawa K.), Kumamoto Academy of Medical Sciences,  
Kumamoto, p. 456-789 (2010)
2. 熊本太郎  
組み換えタンパク質  
新医科学実験講座 23 (医科学会 本荘次郎 編), 化学同人 (熊本) p. 456-789 (2009)

### VII. 招待講演 (国際学会)

1. Kumamoto T.  
Regulation of human cells ... via autophagy.  
The 10th International Conference on Human ... (2011)

### VIII. 特別講演・宿題報告・教育講演・指名講演など (国内学会)

(注：国際学会や全国規模の学会に限定し、企業主催のセミナー・講演会などを除いたものを記載のこと。)

1. 熊本太郎, 本荘次郎  
フォスファターゼと... 活性化機構  
第 123 回 生物学シンポジウム(2006)

## IX. シンポジウム発表など（国内学会）

（注：国際学会や全国規模の学会に限定し、企業主催のセミナー・講演会などを除いたものを記載のこと。）

1. 熊本太郎，本荘次郎  
フォスファターゼと... 活性化機構  
第 123 回 生物学シンポジウム(2006)

## X. 競争的研究資金の獲得状況

（注：過去に獲得した競争的研究資金について、研究代表者・分担者分をそれぞれ文部科学省科学研究費補助金、その他の省庁研究補助金、財団等補助金別に配分資金（直接経費）を記載のこと。なお、研究分担者分については分担者への実際の配分額を記すこと。また、間接経費の交付がある場合には、その配分額を明記すること。）

### 研究代表者分

文部科学省科学研究費

1. 平成 23～20 年度 基盤研究(B) 15,000 千円（間接経費 4,500 千円）  
タンパク質リン酸化と ... 活性化機構
2. 平成 23～21 年度 基盤研究(A) 30,000 千円（間接経費 9,000 千円）  
神経変性疾患と ... 遺伝子治療に関する研究

その他の省庁研究補助金

1. 平成 23～20 年度 厚生労働省科学研究費  
がん克服戦略研究事業 50,000 千円  
細胞のイメージングと ... 分子標的治療

財団等補助金

1. 平成 20 年度 特定研究助成金 2,000 千円  
細胞ストレスと...薬剤耐性化に関する研究

### 研究分担者分

文部科学省科学研究費

1. 平成 23～20 年度 基盤研究(B) 1,000 千円（間接経費 300 千円）  
幹細胞 ... の分子機構に関する研究（研究代表者 黒髪太郎）
2. 平成 23～21 年度 基盤研究(B) 0 千円  
低酸素応答における ... に関する研究（研究代表者 大江良子）

その他の省庁研究補助金

1. 平成 23～19 年度 厚生労働省科学研究費  
がん克服戦略研究事業 5,000 千円  
多剤耐性がん細胞の ... に関する研究（研究代表者 黒髪太郎）

財団等補助金

1. 平成 23 年度 日本糖尿病財団研究助成金 500 千円

細胞ストレスに関する研究（研究代表者 黒髪太郎）

X I . 競争的研究資金の獲得状況のまとめ

注：記入例に従い、総獲得額、研究代表者としての直接経費獲得額、研究分担者としての直接経費獲得額、最近5年間の直接経費獲得額、最近5年間の研究代表者としての直接経費獲得額、最近5年間の研究分担者としての直接経費獲得額を記載すること。間接経費の交付がある場合には、()内にその配分額を記載すること。

記入例

直接経費の総額（間接経費）	研究代表者としての直接経費獲得額（間接経費）	研究分担者としての直接経費獲得額（間接経費）
200,000 千円 (40,500 千円)	150,000 千円 (40,000 千円)	50,000 千円 (500 千円)

最近5年間の直接経費の合計（間接経費）	最近5年間の研究代表者としての直接経費獲得額（間接経費）	最近5年間の研究分担者としての直接経費獲得額（間接経費）
100,000 千円 (25,300 千円)	80,000 千円 (25,000 千円)	20,000 千円 (300 千円)

## 主要研究論文

(原則として原著論文が望ましいが、総説を含めることもできる。総説を記載した場合は、明記すること。合計15編以内に限定して記載すること。)

### ○最近5カ年の業績

1. Oe Y., Honjo E., Kuhonji T, Kumamoto T., Tsubame S., Mizuo T., Sakura H. Shirakawa K. & Kurokami T.\*  
The cell-matrix interaction via CD44 is ... PKC activation.  
J. Cell Biol., in press. [IF, 9.575; citation, 0]
2. Honjo J.\* & Kumamoto T.  
Progression of tumor cells ... in H-Ras oncogenic signaling.  
Proc. Natl. Acad. Sci. USA 108, 9-10 (2011) [IF, 9.432; citation, 10]
3. Kumamoto T.,\* Honjo E., Oe Y., Kuhonji T. & Kurokami T.  
Signal transduction of ... in the cell differentiation.  
Nature 467, 456-789 (2010) [IF, 34.480; citation, 300]

### ○それ以前の主要な業績

1. Honjo J., Kumamoto T.\* & Kurokami T.  
Regulation of cellular proteins ... via ubiquitin-proteasome.  
N. Engl. J. Med., 345, 9-10 (2001) [IF, 47.050; citation, 50]
2. Kumamoto T.\*  
Stress response and transcriptional regulation ... in neuronal cells.  
Nat. Rev. Mol. Cell Biol., 1, 23-45 (2000) [IF, 42.198; citation, 60] 英文総説

注：著者名は全員を記し、応募者にはアンダーラインを引き、論文の corresponding author には\*を付すこと。投稿中論文は記載しないこと。印刷中の論文については、正式な採択通知書のコピーを同封できる場合に限って記載が認められる。記載順は、直近の年代の論文から過去に遡って記載すること。また、掲載誌の最新の impact factor (IF)、及び当該論文の引用回数 (citation; Scopus による最新データ) を記すこと。

# 研究・教育・研究支援に関する業績の概要

氏名：熊本 太郎

現在までの業績をA4に1枚、1200字以内で記載すること。

# 研究・教育・研究支援に対する抱負

氏名：熊本 太郎

当該分野応募に関して、現在お持ちの抱負をA4に1枚、1200字以内で記載すること。